

| 単元 資質・能力 | 実施時期 | | | | | | | | 質的ルーブリック（判断基準） | | |
|---------------------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|--------------------|--------------------|---------------|------------------------|---|--|--|
| | 前期 | | | | 後期 | | | | 考え・基礎知識 （Ideas） | つながり （Connections） | 応用・ひろがり （Extensions） |
| | 数と式 〔数学Ⅰ〕 | 2次関数 〔数学Ⅰ〕 | 場 合 の 数 〔数学A〕 | 確 率 〔数学A〕 | 図形の性 質 〔数学A〕 | 図形と計 量 〔数学Ⅰ〕 | 式と証明 〔数学Ⅱ〕 | 複素数と 方 程 式 〔数学Ⅱ〕 | | | |
| 読解力（文章を読んで正しく理解する力） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 文脈にある情報を正確に理解し，必要な情報を取り出す事ができる。 | 書かれた情報から推論して，自分なりの解釈ができる。 | 情報を一般・抽象化し，概念を拡張して（整数→小数など）発展的に理解できる。 |
| 聞く力（相手の表現を聞いて理解する力） | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | 相手の表現を聞きながら，伝えようとしていることを正しく理解することができる。 | 理解できないところがあれば質問して答えを求め，論理的な間違いがあれば指摘する事ができる。 | 日常生活の中にあるアイデアや数学的事象を聞き逃さず，それを記憶し新たな課題に対してそれを活用できる。 |
| 話す力（相手に理解してもらうように正しく伝える力） | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | 自分の答案や考えを，言葉にして相手に正しく伝えることができる。 | 根幹となる文脈だけでなく，行間にある隙間を自分の言葉で補充しながら表現することができる。 | ，黒板や機材を用いながら，図で示したり，身振り手振りをしたりしながら，自分の答案をきちんと筋道を立てて話すことができる。 |
| 分析力（筋道を立てて考える力） | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | 何が問われているのか，目的に向かってどのような考え方をもてばいいのかを大局的に分析できる。 | 問題を解決するには，何にどのように組み組めばいいのか，筋道を立てて考えることができる。 | 日常生活上の課題の解決のために，何をすればいいのか，どうなればいいのかを考察できる。 |
| 論証力（答案を数学的に表現する力） | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 解答を整理し，数学的な正しい表現（「ゆえに」「～とおく」「～すればよい」など）で無駄なく表現することができる。 | 自らの手で記述答案を作成し，その表現が正しいかどうかを自己評価することができる。 | 他者の誤答答案を分析し，何が良くないのか，どこを直せば良いのかを指摘することができる。 |
| 記号処理能力（数学の記号を正しく使う力） | ○ | | | | ○ | | | | 数学独特の記号の定義を正しく押さえ，表現することができる。 | 違う単元で登場した記号を同じものと認識することができ，構造的に結び付けて記憶・考察することができる。 | 高度な数学記号（ガウス記号，絶対値など）を正しく理解し，自らの答案作成においても正しく表現することができる。 |
| 図表化力（グラフや表で表現する力） | | ○ | | ○ | | ○ | | | 問題文中にあるグラフや表を，正しく理解することができる。 | グラフと式や，表同士の相関関係など，複数のデータを複合的に考察することができる。 | グラフや図が与えられていない問題に対しても，積極的に自ら作図を行い，それを活用することができる。 |
| 主な学習活動（協議，討論，発表等） | 発 表 ・ レポート | 協 議 ・ レポート | 協 議 ・ レポート | 討 論 ・ レポート | 発 表 ・ レポート | 討 論 ・ レポート | 協 議 ・ レポート | 発 表 ・ レポート | | | |

| 意欲・態度，価値観・倫理観 | 考え・基礎知識 （Ideas） | つながり （Connections） | 応用・ひろがり （Extensions） |
|-------------------|---|--|---|
| 多様な考え方を重視する態度 | 一つの考え方を多様な考え方で解決する態度を身に付ける。（個の考え方の多様性） | 自分以外の人の考え方に触れ，共通性や相互の関連性を明らかにすることで，より論理性の高い意見を構築することが出来る。（集団としての多様性） | 他者と協同で構築した意見をイメージ化し，自分の日常的経験の中から具体例を挙げて説明することが出来る。 |
| 解決に向かうプロセスを重視する態度 | 数学の本質が，結論を求めることのみではなくその解法のプロセスにあることを理解する。 | 自分の考え方及びそのプロセスを，図や表及び簡潔な文章によって表現することが出来る。 | 作成した課題を基に，自分の言葉でプレゼンテーションすることが出来，さらにその批評を受け止めてより質の高い考えを創り上げることが出来る。 |

